

平成 25 年度 東京都公民館連絡協議会委員部会
第 5 回（9 月定例会） 運営委員会 記録

日 時 : 平成 25 年 9 月 12 日（木） 午前 10 時 ～ 正午
会 場 : 西東京市柳沢公民館 1 階第三会議室
出席者 : 昭島市（高橋・大澤） 町田市（柳沼） 小金井市（亙理） 小平市（浅岡）
（敬称略） 日野市（鈴木） 国分寺市（田中） 狛江市（石田） 東大和市（武田）
国立市（佐藤） 西東京市（野間 会長） 西東京市（石川 25 年度事務局）

【 議事次第 】

○ はじめに

- ・委員の交替 昭島市の高橋氏が 10 月の公運審改選で委員を退き、新委員として大澤俊則氏が就任。お二人のご挨拶があった。
- ・第 4 回（8 月定例会） 運営委員会記録の内容確認 ～ とくに修正等なし。
- ・野間委員部会会長より、第 1 回研修会の報告があった。53 名参加 アンケートの提出は 37 名（回収率 69.8%）。アンケート内容（資料 1）について、若干の説明があった。～ 研修内容・運営ともによかったという感想が、ほとんどであった。意見としては、グループ討議があった方がよい。講師が月刊社会教育に書いた資料を配布して欲しかったなど。
- ・第 2 回、3 回の研修会のテーマ、講師について、アンケート結果を踏まえて、本日の議題なかで協議した。

【 本日の議題 】

- (1) 第 2 回研修会について
- (2) 第 3 回研修会について
- (3) 情報交換

上記の(1)から(3)についてと第 1 回研修会の感想を含めて、一括して協議した。

結論として、以下が決定された。

- (1) 第 2 回研修会について

○開催日時 2013 年 12 月 1 日（日） 14 : 00～16 : 00 時

○会場 西東京市柳沢公民館

○研修テーマ 公民館の今日的な課題 ～ 公民館は誰にとってほんとうに必要なか ～

○講師 伊東静一氏（福生市元公民館館長）を予定

○当日の日程

13:30 受付開始

14:00 講演

15:20 ～15:30 休憩

15:30 質疑応答

16:00 終了

(2) 第3回研修会について

○開催日時 2014年2月から3月上旬 日曜日の午後を予定

○会場 西東京市柳沢公民館を予定

○研修テーマ 未定

○講師 荒井文昭氏（首都大学東京教授）に依頼する。

【本日の議題】について話し合われた主な意見の概要

- ・ 第2回研修会の講師として伊東静一氏（福生市元公民館館長）を予定。依頼は高崎副部長に当たっていただいた結果、「引き受けてもよい」との返事だった。
- ・ 伊東氏については、過去に「事業評価」について話してもらったことがある。話が分かりやすい。公民館全体について詳しく、市民との対話を大切にしている適任だ。
- ・ 研修内容については、公民館に市民をいかに引き寄せるか、それぞれの市の公民館が抱えている課題である。とくに公民館になじみのない若者や仕事を持った現役の市民にいかにアプローチするかという点で、各市の公民館の取り組みが紹介された。小金井市では、公民館に若者コーナーを設置。国分寺市では、スタジオがあると若者が集まるという。学社融合の試みとして、学芸大との連携が他大学の若者を呼び込むきっかけとなっている。外国人留学生との交流の場の企画などが報告された。
- ・ 一方、年配者が集まって、若者をどうするのか話し合っても、若者に受け入れられる妙案ができるとは思えない。それよりもほんとうに公民館を必要としている、あるいは来て欲しい「子育て中の若い母親」や孤独な「シニア」にもっと焦点を絞っていく必要があるのではないか、

との問題提起もなされた。その意味で、第2回の研修テーマを、

公民館の今日的な課題 ～ 公民館は誰にとってほんとうに必要な ～ とした。

- ・ いずれにしても公民館の日常活動の質が、市民獲得のポイントであり、今日までの公民館活動に問われ続けられてきたことでもある。第1回の研修会で、講師の上田先生が問いかけた「被災直後（非日常）、公民館に避難してきた住民に「公運審委員は、さあ、どうしますか」や被災地に「公運審委員の顔は見えなかった」は、非日常のあり方を左右するのも、日常的な公民館活動の質であるとの認識ではなかったか、などの意見がでた。
- ・ 第1回研修会「災害時における公民館の基本的役割と課題」については、それぞれの地域や市によって、公民館や類似公民館に大きな位置づけの違いがあるので、各地域の実情に合わせていく以外にないということになった。例えば、日野市は公民館を避難所に指定していないが、狛江市は一次（時）避難所に指定され、国分寺市では二次（時）避難所とされ公運審委員も避難訓練に参加している。しかし、非常時への対応に違いがあっても、公民館としての日常活動が、地域住民の公民館に対するまなざしを左右することになっていることは間違いないと思われる。

公民館の日常活動のなかに、減災・防災教育などの現代的課題を組み込んでいき、地域の自治会や防災会とのネットワークを広げる工夫が求められている。そのことが同時に、地域の人々を公民館に繋げていくことにもなる。

(4) その他

野間部会長から都公連役員会の報告があった。

- ・ 第54回関東甲信越静大会（新潟）では、830名が参加（地元新潟から480名、次年度大会県の埼玉県から83名、東京からは78名）
- ・ 平成27年度東京大会への取り組み ～ 東京都は都公連を任意団体としている。都の施設を借りるためにも、都の協力を引き出すよう働きかけて生きたい。大会は1日で行い午前（講演）、午後（分科会）の予定。

第6回運営委員会は、10月10日（木）午前10時から、西東京市柳沢公民館で開催。

以上

記録担当 日野市